



みずみどり

2021年 2月1日

第142号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

バッタ広場の自然のおもしろさを知ってほしい

いたばし水と緑の会は1997年から赤塚公園城址周辺で活動しています。東京都公園協会にお願いして、城址の片隅に柵をつくり、バッタ広場(当初は草を刈らない場所だった)ができあがったのは2000年。バッタ広場には生き物達がいっぱいやってきました。ジャングルになってしまったこともありました。私たちの関わり方によって生えてくる植物は変わり、生きもの達も変わってきます。バッタ広場の手入れからちらっと見える自然のおもしろさ、大切さ、生き物のいのち等々を、エコポリスセンター主催「環境なんでも見本市」で紹介します。



左上：バッタ広場
1年後(2001年)

右上：2005年夏、
繁茂したクズ刈り

左下：2020年秋
バッタ広場を柵の
外側にも拡大



環境なんでも見本市

今回の「環境なんでも見本市」はWEB(インターネット)で開催されます。期間は2月1日10時~2月14日17時。環境団体や区内小中学校等が出展します。期間中にエコポリスセンターのホームページにアクセスして下さい。(<https://itbs-ecopo.jp/>)

ホームページでは会報をカラーで紹介しています。



「ミツバチを飼って分かったこと、 感じたこと」(その2)

ぶんぶんいたバチ代表 新井 康之

2.「ぶんぶんいたバチ」の経緯

1. スタートは板橋区立総合ボランティアセンター

「ぶんぶんいたバチ」の前身は、「いたバチプロジェクト(以下いたバチPJ)」です。2014年1月板橋区立総合ボランティアセンターのいたばし学校でスタートしました。

当時のボランティアセンターで業務をしていた女性を中心に、板橋区で学童事業を行っているNPO法人の0さん、当時大東文化大学内に拠点を置いていた「NPO法人東京ミツバチ研究会」の荻原さんの三者で立ち上げました。

0さんのいるNPO法人は江東区で養蜂をスタートした実績があります。0さんが養蜂経験者として私たちの作業をリードしてくれました。荻原さんはミツバチや道具類を準備して1年間技術指導に当たりました。赤塚在住で徳丸地域に土地を借りて養蜂をしています。付近で巣箱をご覧になった方もいるかもしれません。

スタートにあたり難航したのが巣箱設置場所だったようです。東新町で場所を提供していただけところが見つかりスタートに至りました。作業ボランティアの募集があり、設置場所が私の自宅から200mと近いことからすぐに申し込みました。

実際の養蜂作業は2014年7月にミツバチ2群、ボランティア18名でスタートしました。初年度は1回の採蜜でした。この年は難なく冬越しできたのですが、後年近隣の養蜂グループが冬越しができていないことを知り、荻原さんの指導レベルの高さを感じました。

また、2017年には新たに購入した2群から新女王バチ誕生時に巣分かれさせ4群に増やしました。これは0さんの持っていた人工分峰技術によるものでした。これを引き継ぎ、今年も群を増

いたばし学校
いたバチプロジェクト始動!

『いたバチプロジェクト』とは!?
ミツバチは自然環境が豊かな場所에서만生きることが出来ません。板橋でミツバチを育て、ハチミツが採れたらどんなにいたろう。「いたバチ(板橋のミツバチ)プロジェクト」は、そんな声から生まれました。東新町の安養院さんの一面をお借りし、地域のみなさんと一緒にミツバチの世話をしながら、地域とのつながりやまちの活性化、子ども達へのハチミツを使ったワークショップを行っていきたくと思っています。

メンバー募集!

●●● キックオフ講座のご案内 ●●●

2014年春から巣箱の設置が始まります。「いたバチプロジェクト」に興味のある方、参加希望の方を対象に全2回の講座を開催します。巣箱設置後も定期的にミーティングを行い、メンバーで話し合いながらイベントなども企画していく予定です。興味のある方は、ぜひご参加ください。

●1回目 「ミツバチの基本講座」

- 日時: 2014年1月31日(金)13:00~15:00
- 場所: いたばし総合ボランティアセンター 第1ルーム(本町24-1)
- 講師: NPO法人ワークスコープ 東京北部事業本部
板橋学童事業所 所長 小川 勇気さん
- 内容: プロジェクトの主旨説明とミツバチに関する基礎講座

●2回目 「ミツバチの世話と注意点」

- 日時: 2014年3月13日(木)13:00~15:00
- 場所: いたばし総合ボランティアセンター 第1ルーム
- 講師: NPO法人東京ミツバチ研究会 理事 誠一さん
- 内容: 巣箱の掃除や採蜜等の具体的な世話の内容と注意点

■申込・問合せ: いたばし総合ボランティアセンター (担当 神元)
Tel 5944-4601 / E-mail: ita-vc@violin.ocn.ne.jp

■参加費: 無料

共催: いたばし総合ボランティアセンター/NPO法人ワークスコープ
一般社団法人日本社会運常機構/NPO法人東京ミツバチ研究会

やしています。

ミツバチ群は一度購入すれば女王バチを更新することによってずっと飼える筈です。しかし「いたバチPJ」では2,3年で病気が発生、全滅し、新しい群を購入しています。最も蜂蜜が採れたのは2017年で、年間蜂蜜収量が50kgになりました。当時は販売をしていましたが、大量の在庫を掃くのが難しく内部から苦言が出る皮肉な事態になりました。



2018年3月C群箱替え後

2. 有志が集まり、再スタート

「いたバチPJ」の転機は2019年3月でした。総合ボランティアセンターの委託業者が変更になることが決まり「いたバチPJ」の継続が困難になったのです。メンバーの協議の結果、東新町の設置場所も継続して利用できたので「ぶんぶんいたバチ」としてメンバー11名で再出発することになりました。ミツバチは基本1群の飼育となり、規模は「いたバチPJ」より半減しましたが、蜂蜜収量からも適正な規模と考えています。私は7年間築き上げた養蜂技術の維持とさらなる向上目指して「ぶんぶんいたバチ」に参加しています。

3. 蜜源植物のこと

1. ミツバチの採蜜域に城北中央公園が100%含まれる

Q&A で書いたように私たちの巣箱近くには城北中央公園があって、その全域が1km以内に入ります。有名な「銀座ミツバチ」では、皇居、日比谷公園、浜離宮をミツバチたちの採蜜場所に上げていますが、すべて1km以遠です。緑地の面積では銀座に敵いませんが、距離では私たちに分があります。今の場所は少数の群を飼うにはいい条件です。

城北中央公園にある蜜源樹木を開花日順に一覧表にしました。サクラの花が終わって一服しますが、その後は7月末まで蜜源は途絶えません。ミツバチにとってはいい環境だと思います。近くの街中には夏みかんなどのかんきつ類の花が咲くのでこの期間は蜜源には事欠かないでしょう。

でも一覧表を見ると冴えないB級の花ばかりです。トウネズミモチやアカメガシワは雑木の類ですから、できれば切り倒してきれいな花の咲く木を植え替えて欲しいと思っている人も多いでしょう。これらの樹木は、花粉を媒介する昆虫を集める手段として、見せかけの花にコストをかけずに花蜜にコストをかけています。昆虫にとっては花に騙されるより花蜜にありつける方がうれしいですね。

城北中央公園の蜜源樹木

開花時期	樹木	園内の本数
5月上旬	トチノキ	5本
5月上旬	ユリノキ	10本
5月中旬	ハゼノキ	1本
6月上旬	シナノキ	30本
6月中旬	マテバシイ	多数
6月中旬	アカメガシワ	5本
6月下旬	トウネズミモチ	多数
7月上旬	ナンキンハゼ	5本
7月～9月	エンジュ	10本

2. 特徴的な蜜源樹木がシナノキ(写真右)

一覧表の中で、城北中央公園ならではの蜜源樹木はシナノキだと思います。北海道での代表的な蜜源樹木です。ドッグラン域にはシナノキや近種のボダイジュが20本ほど密集してあります。また都民の森広場には大小4本が独立して植えられています。さらにリンゴ広場には10本ほどが街路樹として並んでいます。北国の樹木がたくさんあるのは不思議でしょう。

ドッグランはもともと1990年ごろまでは苗木農場でした。そこに植えられていた木が大きくなって林になっています。ここのシナノキ類の由来、実は海外なのです。東京都を訪れたドイツからの客人がお土産に持ってきた苗木を仮植えしたことにあります。日本人はシューベルトの「菩提樹」の歌が好きですし、森鷗外の名作「舞姫」にもベルリンのウンテル・デン・リンデン通りがでできますからね。正確ではありませんが、他の区域のシナノキ類もドッグランの苗木が使われているのかもしれませんが



3. ミツバチに人気ナンバーワン蜜源樹木はハゼノキ(写真右下)

ミツバチに一番人気のある木が都民の森広場にある一本のハゼノキ(雄株)です。小さな花が房状に付きますが、来園者は見向きもしてくれません。花びらがほとんど無く花粉で黄色く見えているだけなのです。花の期間は数日ですが、ミツバチが集結し5m離れたところでもハチの羽音が聞こえてきます。私たちのハチたちだけとは思えない数なので、「君たちどこから来たの?」と思わずハチに住所を聞きたくなります。



ハゼノキは関西では代表的な蜜源樹木です。かつて蠶を採るために植栽していたものが野生化したという喜ばない事情もあります。赤塚公園の噴水近くにもハゼノキがたくさんあるので、花期にミツバチが集まるか見に行きたいと思っています。指導してくれた荻原先生が飼っているミツバチが行っているかも知れません

4. 意外に人気、マテバシイ

意外にミツバチが多く集まる樹木がマテバシイです。大きなどんぐりのなる木でお馴染みです。どんぐりのなるブナ科の木は風媒花が多いのですが、マテバシイは虫媒花です。ミツバチは房状の雄花を歩き回るだけなのですが掃除機をかけるように蜜を集めているのでしょう。城北中央公園の競技場周辺にはたくさん植えられているので蜜源としての貢献度は高いかもしれません。同じブナ科の風媒花、クリやスダジイは花の臭いが強いですが、ミツバチの姿は見られません。

5. ミツバチがあまり来ない花

他の昆虫は蜜を吸いに集まってくるのに不思議とミツバチが見られない樹木の花があります。それらを紹介しますので、共通点を探ってみましょう。

5月に城北中央公園の一角でエゴノキの花がたくさん咲く区域があります。しかし満開の花の中、クマバチやマルハナバチの姿が見られてもミツバチはいません。みずみどり第139号で「蜜(みつ)の吸い方」という記事がありましたが、釣鐘型の花の蜜をミツバチが吸うのは苦手なようです。エゴノキに近いハクウンボクにはミツバチが来ていました。しかし観察すると釣鐘の中に頭を入れることなく、入口の雄しべの花粉を集めていました。



毛呂山遺跡のハクウンボク

巣箱から一番近い蜜源が区立桜川小学校のネズミモチです。中国産のトウネズミモチは人気があるのでさぞかしミツバチでにぎわっているかと思いきや1,2匹いる程度。トウネズミモチは花びらもほとんど無く見栄えのしない花ですが、一方のネズミモチはジャパニーズ・ライラックといった感じの小さなラッパ型の白い花がたくさん付きます。ラッパの中に頭を入れるのも苦手なんでしょうか。

アオギリの花にもミツバチは来ません。蜜が豊富なようで、クマバチやハラナガツチバチさらにはメジロまでやってくるのにミツバチは見られません。ラッパが裂けたような花の形ですが個性的です。ミツバチの本では蜜を吸いにくい構造だと記載されていました。

フジの花にはクマバチが付き物ですが、この花もミツバチは苦手なようです。クマバチとミツバチでは大きさが違いますからミツバチでは受粉ができないのかもしれませんが。フジの花は盗蜜されないようにミツバチが入りにくように工夫しているのでしょう。ミツバチは花の正面から入らず花の上を突いて裏口から蜜を吸っていました。ミツバチのほうが上手です。



安養院のフジとミツバチ

蜜の品質の問題もあるので花の形状だけではないとは思いますが、釣鐘型やラッパ型は苦手なかもしれません。一方、マメ科の花はニセアカシヤ、エンジュ、クローバーはミツバチに人気が高いので必ずしもマメ科の花の構造が苦手というわけでもなさそうです。

6. 夏はミツバチにとってピンチ

夏は花壇に咲くヒマワリなどを除くと花が多くありません。養蜂関係では「夏の蜜枯れ」と呼ばれています。

夏に咲く代表的な樹木の花といえばサルスベリですね。百日紅いうだけあって長期間次々と花をつけます。でもサルスベリは”きれいな花には蜜がない”の代表格で蜜が出ません。その代わりミツバチの花粉源になるのですが、外側のおしべはダミーだそうで、いけずな美人といった感じですね。

夏の蜜源として期待できるのは、エンジュです。城北中央公園では本数は少ないものの大木が

多いのが特徴です。花びらが大量に落ちていて開花が分かることもしばしば。花期は長く年によっては7月から9月まで咲くことがあります。その蜂蜜は色が濃く、重厚感のある味わいなので、初夏の花の蜂蜜とよい対比になります。ところが、近年公園では大木が切り倒されることが多くて困っています。

もう一つの期待の蜜源が、嫌われ者の蔓草ヤブカラシです。”貧乏かずら”の汚名に係わらず拙宅ではミツバチのためにはびこらせています（写真右下）。ブドウの仲間という少し印象は良くなりますが、自然観察家の間では「昆虫たちのレストラン」と呼ばれ、アオスジアゲハをはじめ多くの虫が花蜜を求め集まります。ヤブカラシの名のとおり、絡みついた草木の上をどんどん伸びながら花を咲かせます。エンジュ同様に花期が長いのが特徴です。去年はエンジュの花がほとんど咲かず、夏の蜂蜜はヤブカラシが主体になりました。その蜂蜜はくせのない素直な味わいですが、結晶化しやすいのが難点でした。私たちが作っている蜂蜜は、業者さんが作る単花蜜に対していろいろの花の蜜が混ざるので百花蜜と呼ばれています。ハチたちは実際のところどこで花蜜を集めているかは定かではありません。いろいろな花を想像しながら「ぶんぶんいたバチ」のハチミツを味わうのが、楽しみ方ですね・・・きっと（次号に続く）。



自宅のヤブガラシ

浮間公園に水鳥を見に行った

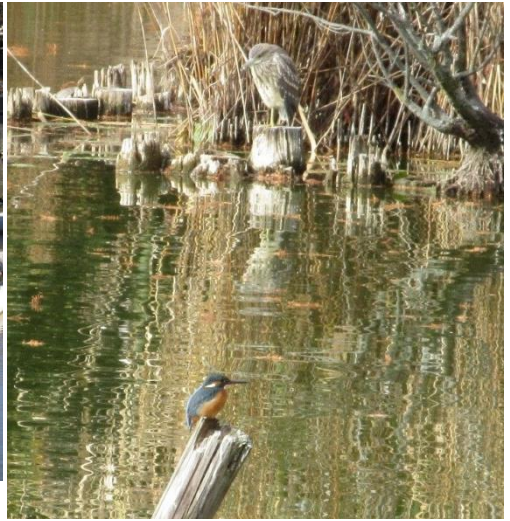
コロナ禍のなか、外出自粛が繰り返し言われていますね。こんな時だからこそ、身近な自然観察です。12月19日、自転車や徒歩で浮間公園に出かけました。

浮間公園は、荒川と新河岸川の間であり、昔の荒川の流路の跡です。かつて荒川は、今の荒川と新河岸川の間を蛇行して流れていましたが、大正から昭和にかけての大工事で荒川をまっすぐにし、新しく新河岸川を掘り、新河岸川は北区の岩淵水門から隅田川になっています（岩淵水門から下流の荒川は、開削した人工的な川で以前は荒川放水路と呼ばれていました）。

荒川の直線化と新河岸川開削の壮大な歴史は置いておいて、浮間公園は、以前は池底から湧く水をたたえていました。池の護岸が改修され、自然の水際が失われ、湧水量も減って地下水を補給している？ようですが、立派な自然の池で、冬にはたくさん水鳥（渡り鳥）が訪れます。

水鳥のバードウォッチングは観察しやすく、とても楽しい。大きなカモがたくさん水に浮かんでいて、身近に冬鳥がゆっくり見られる、板橋区の貴重な自然スポットのひとつです。

池の手前側（浮間舟渡駅側）の観察デッキ側にはカモたちやユリカモメが多く見られますが、それでも減ったような印象です。以前多かったオナガガモは（しっかり確認したわけではありませんが）見当た



りませんでした。オナガガモやユリカモメは人間の餌やりに順応する水鳥で、餌やりが禁止されてから東京では数が激減したそうです。ユリカモメは来ていましたが、それほど多くはありませんでした。カモやユリカモメは雑食性です。

奥の荒川側は、サンクチュアリになっていて、森があり水際は草地で、ここにはカモやユリカモメはいなくて、水際にはサギがいました。大きなアオサギがじっと固まっっていて、置物みたい。眠っているのか、獲物が近くに来るのを待っているのか？この日はアオサギとゴイサギがいました。奥の草むらにもアオサギがいましたが、こちらは睡眠中かな？

手前の杭にカワセミが止まって、魚を捕っています。ときどき飛び込んでエサをくわえてまた杭に戻ってきます。見ていて飽きません。奥の木立にオオタカが2羽いて、豪華な観察会でした。大きなカメラでシャッターチャンスをねらっている人もいました。

サンクチュアリのフェンスに、野鳥の写真や、季節ごとに見られる野鳥の表、それにこの日に観察された野鳥の名前が毎日書き込まれたボードがあります。野鳥たちを観察して記録してくれる人がいるようです。この掲示を見るのも楽しみです。

トンボ池では

さて、ささやかな赤塚トンボ池にも以前カワセミが来てザリガニを捕っていたことがありました。奥の木の枝や手前の梅の木からジャンプしていました。どちらの木も切られてしまい、水底が見える杭があってカワセミが利用したらいいなあ？ ということで、ダメもとで、切った太めの枝を池に打ち込んでもらいました。うまくいくといいのですが…、12月は枯れた草を刈って冬の作業の準備。

池の傍らの渋柿には、12月13日にはヤマガラとメジロが群れで飛来、すでにかじられた柿も何個もあり、その後次々と野鳥がやってきました。1月10日には、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、シロハラ、それからムクドリ、小さなメジロは少しずつ上手に食べ、ムクドリはガサガサと食い荒らす感じ。1月21日最後の1個の渋柿もなくなり、橋の上には糞が点々と残っていました。

観察記録（11月16日～1月10日）

アオマツムシ（死骸）、カマキリ（死骸）、ニセアカマエアツバ？、トホシテントウ（幼虫）、テントウムシ（蛹）、スギタニモンキリガ？、トンボ池の渋柿に野鳥多数、バツタ広場にモズ

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）または
坂本 090-4618-1295

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

2月27日（土）10:00～11:30

3月27日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

2 赤塚城址自然観察会とボランティア体験（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。コロナ禍でもできること、生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に返します。30分程度ササ刈り等もやります（カマは用意します）。

2月14日（日）10:00～11:30

3月14日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：軍手（ゴム手袋）、オーバーズボンやウインドヤッケなどツルツルした服だとくつき虫（種）がつきにくい。あれば双眼鏡、虫眼鏡、図鑑など、

3 日暮台公園と樹林地の観察

2月7日（日）10:00～11:30

3月7日（日）10:00～11:30

4月4日（日）10:00～11:30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。